

三

陸普

通條

所及ヨリ 各師団參謀長、東京灣、由良、函館、
舞鶴、長崎要塞司令官、對馬警備隊司令官、散

育總監部庶務課長、(第七師団留守部
三八寫送付)

三八式野砲、於ヶ砲及砲架砲
中、隙備節制頭ハ若式寸段ノモ
ヲ支給整備スルハ終ニ候處砲車
ヨリ往々其駐退機ニ適合セ久隙備
タルノ性質ヲ具備セサレバノ
ヲ發見致候ニ就テハ(各保管部隊
飛テ兵器支取長立令ノ上)一底名砲

車、乾^別牛^分者頭紐立檢査、要領、
 據り、豫備節制頭、通令、
 し、萬一適合不良、
 バ、治寒桿、治寒、固有節制頭及逸出孔
 解ト共、之ヲ工廠、送付修理方、
 器、廠ヲシテ取計ハシ、
 知、相成度候也、
 各要塞及警備隊司令部行、本文中、
 計ニ改メ作ル

陸 普
今夏弓 陸軍兵器本廠
三八式野砲、九二式砲及砲架等

中ノ豫備官制頭經々其所砲車ノ
 駐退機ニ適合セザルモノ有之候ニ
 就中坎隆兵器支廠長立會ノ上官制
 頭廻至検査ノ要領ニ據リテ各條後
 部隊ニ於テハ豫備官制頭ノ其所
 砲車ニ對スル適否ヲ検査セシメ適
 合不良ナルモノハ活塞桿活塞、固有
 官制頭及逸出孔辦ト共ニ之ヲ工廠
 ニ送付修理セシメテ至依命及通
 達候也

十月十三日

進々本件修理ハ別紙要領ニテ實施スルモノニテ

修理に要する費用ハ兵器廠に於テ員担スコトト
 承知セ被知ルル故迄及テ検査実施セ就キ軍隊
 學校に對シテハ以テ通條適用セラルル中係リ

陸 普

令及リ

大坂兵器廠提理

三八式野砲ニ於ケル砲及砲架部品
 中ノ豫備部制頭柱ニ其所属砲車ノ
 駐退機ニ適合セザルモノ有之候ニ
 就キ此際各係長隊ヲ於ケルモノ
 ノ適否ヲ検査ニ適合不良ノモノハ
 活塞桿活塞固有節制頭及逸出孔等

在

目

ト共ニ工敷ニ是年修理セシメ
升年到着ノ上ハ羽紙要領ニ日
施ノコトト承知相成度依命及
候也

薩摩藩陸軍第三八五九號
十月十日



三八式野砲節制頭組立検査要領

官房和

活塞桿ニ逸出孔弁節制頭及活塞ヲ結合シテ駐釘ヲ螺定シタ
 ル後左ノ要領ニ由リ相互ノ關係ヲ檢スヘシ
 一、節制頭ハ其ノ定位置ニ於テ廻轉自在ナルヘク又之ヲ活塞
 桿端ノ階段部ニ壓着スルトキ活塞接面トノ間ニ〇ニ耗以
 上ノ遊隙ヲ有セス節制頭ハ等齊ニ活塞ニ接觸スヘシ
 二、節制頭ヲ活塞桿ノ階段部ニ壓着シタルトキ逸出孔弁ヲ扛
 起スルコトナク其ノ接觸面能ク密合シアルヘシ

別紙

三八式野砲節制頭加修要領

加修法、要訣ハ制式寸度ノ節制頭ヲ直ニ装着シ
得ル如ク活塞桿、活塞及逸出孔、弁ヲ加修スルニ在
リ其要領次ノ如シ

イ、活塞桿節制頭、嵌入部ノ中徑大ナルモノハ之ヲ制式
寸度ニ鑢削ス之カ爲固、有節制頭ノ装着不良トナ
ルトキハ固有節制頭ヲ新品ト交換ス

ロ、活塞螺、定位置過出シ結合シ能ハサルモノハ制式寸
度ノ節制頭ヲ結合シ得ル如ク、活塞ノ接合面ヲ鑢
削シ其ノ固有節制頭ハ新品ト交換ス
ハ、前項ト及シ、活塞ト新節制頭トノ接合部ニ間

官房

隙アルモノハ活塞ノ接合面ニ之ト外内中徑ヲ同ウシ漏
 孔部ヲ削開セル黃銅製圓鑲ヲ鐸著シ其ノ固有
 節制頭ノ長サヲ制式寸度ニ鑲削ス若シ金質ノ關
 係上圓鑲ノ鐸著不可能ノモノアラハ活塞ヲ新製品
 ト交換ス

二、新節制頭ト逸出孔辦トノ密接不良ナルモノハ
 逸出孔辦ヲ加修シテ密合セシムヘシ之カ爲固有
 節制頭トノ密合不良トナルトキハ固有節制頭ヲ新
 品ト交換ス

第九三一號 共一

甲 二五九

三八式野砲駐退機部品修理ノ件上申

大正六年十月十八日

陸軍技術審査部長 島川文彦

陸軍大臣 大島健一 殿

本年六月二十三日陸普第二〇六五號ヲ以テ下達
 相成候三八式野砲駐退機部品修理ノ件
 二關シ審査ヲ遂ケ候處節制頭ノ交換性
 ハ充分ト認メ候モ少數ノ砲車ニ在リテハ
 活塞桿節制頭簷入部ノ寸度及活塞螺定
 位置ノ關係等ニ由リ直ニ交換ヲ行フコト
 能ハサルモノ有之候ニ付此ノ際左記ノ要

同部

二五九
十月十九日

領ニ由リ曩ニ兵器細目名稱表ヲ以テ追
加相成候豫備節制頭ヲ交附シ豫メ適
合加修セシメラレ度別紙三八式野砲
節制頭交換性ニ關スル調査報告書
相添及上申候也

追而三八式野砲屬品トシテ加修用器
具ハ之ヲ要セス又節制頭ハ彈藥車前
車中箱ニ收入スルコトニ相成居候ニ付
申添候

左記

一 砲及砲架屬品タル豫備節制頭ハ制式寸度ニ

二

加修要領

完成セルモノヲ各隊ニ交附シ兵器支廠長
 ヲ立會ハシメ節制頭組立検査ノ要領
 ニ據リテ具ノ適合ヲ検査セシメ其ノ適
 合品ハ直ニ之ヲ砲ノ豫備品トナシ適合
 不良ナルモノハ活塞桿活塞固有節制
 頭及逸出孔弁ヲ工廠ニ送附セシメ制式寸
 度ノ節制頭ヲ結合シ得ル如ク之ヲ加修ス
 加修法ノ要訣ハ制式寸度ノ節制頭ヲ直ニ装
 着シ得ル如ク活塞桿、活塞及逸出孔弁ヲ加修
 スルニ在リ其ノ要領次ノ如シ

イ 活塞桿節制頭嵌入部ノ中徑大ナルモノハ
之ヲ制式寸度ニ鑢削ス之カ爲固有節制頭
ノ裝著不良トナルトキハ固有節制頭ヲ新
品ト交換ス

ロ 活塞螺定位置過出シ結合ニ能ハサルモノハ
制式寸度ノ節制頭ヲ結合ニ得ル如ク
活塞ノ接合面ヲ鑢削シ其ノ固有節制頭ハ新
品ト交換ス

ハ 前項ト及シ活塞ト新節制頭トノ接合部ニ
間隙アルモノハ活塞ノ接合面ニ之ト外内中徑
ヲ同ウシ漏孔部ヲ削開セル黃銅製圓鑲ヲ鐸

署シ其ノ固有節制頭ノ長サヲ制式寸度ニ鑑
 削ス若シ金質ノ關係上圓鑲ノ鐸者不可
 能ノモノアラハ活塞ヲ新製品ト交換ス
 二 新節制頭ト逸出孔辦トノ密接不良ナ
 ルモノハ逸出孔辦ヲ加修シテ密合セシムヘ
 シ之カ為固有節制頭トノ密合不良トナル
 トキハ固有節制頭ヲ新品ト交換ス

1472

三八式野砲節制頭ノ交換性ニ關スル調査報告

大正六年十月

三八式野砲節制頭ノ交換性ニ關スル調査報告

本調査ハ大正六年六月二十三日陸普第二。六五號ノ審査命令ニ基キ行ヘルモノトス

調査要目

大正五年六月兵器細目名稱表ノ改正ニ由リ三八式野砲ニ砲及砲架屬品トシテ豫備節制頭一箇ヲ追加セラレタリ而シテ既成砲車ニ對シ此ノ追加改正ヲ實施スルニハ砲車ヲ工廠ニ搬送シテ之カ適合ヲ試ミサルヘカラサルヤノ疑アリ然ルニ制式寸度ニ製作セル節制頭ヲ以テ直ニ任意ノ砲車ニ結合シ得且所望ノ後坐長ヲ得ラルルモノトセハ砲車搬送ノ處置ヲ避ケ得テ實施容易ナルヘシ又節制頭ノ命數ハ活塞ニ比シ短小ニシテ將來ノ戦闘ニ於テハ一箇ノ豫備

品ノミニハ不足ヲ告クルコトナキヲ保セス此ノ場合ニ於テモ
若制式寸度ノモノヲ以テ直ニ交換シ得ルモノトセハ其ノ補給モ亦
容易ナルヘシ

叙上ノ希望ニ由リ三八式野砲節制頭ノ交換性ニ關スル調
査ニ着手セリ調査要目次ノ如シ

第一 結合上ノ景況

制式寸度ニ製作セル節制頭ヲ以テ任意ノ砲車ニ結合シ得ルヤ否ヤ

第二 加修法ノ研究

若結合シ得ストセハ適合ノ爲ニ採ルヘキ加修法

第三 射撃上ノ交感

制式寸度ノ節制頭ヲ結合ノ上射撃シ所望ノ後坐長ヲ得
ルヤ否ヤ

調査成績

第一 結合上ノ景況

近衛野砲兵聯隊及東京陸軍兵器支廠保管ノ野砲克社製十一門、大阪工廠製十九門ニ就キ結合ヲ檢シ且野戰砲兵射擊學校保管ノ野砲克社製三門、大阪工廠製二門ニ就キ實地節制頭ノ交換ヲ行ヘリ其ノ結果ヲ摘記スレハ次ノ如シ

一、活塞桿ノ節制頭嵌入部ノ中經過大ナル爲節制頭ヲ挿入シ得サルモノ及結合シ得ルモ回轉困難ナルモノ克社製ニ各三門アリ

二、活塞桿ノ節制頭嵌入部ノ長サ過短ナル爲若ハ活塞ノ螺定位置過出セル爲結合シ得サルモノ大阪製ニ三門

アリ

三、前項ト全ク反對ノ理由ノ爲節制頭ト活塞トノ接合部

ニ〇、五粒以上ノ間隙ヲ有スルモノ克社製ニ五門、大阪

製ニ三門アリ

之ヲ要スルニ大部ノ砲車ハ制式寸度ニ製作セル節制頭ヲ

直ニ結合シ得ルモノ一部ノ砲車(特ニ克社製ニ多シ)ニ在リテ

ハ加修スルニアラサレハ之ヲ結合シ得サルモノト認ム

第二 加修法ノ研究

野戦砲兵射撃學校保管ノ野砲中大阪製ニ門ハ共ニ前記第

ニ項ノ故障ノ爲、克社製三門ハ共ニ前記第三項ノ故障ノ爲

直ニ制式寸度ノ節制頭ヲ結合スルコト能ハサリキ依テ大

阪製二門ノ活塞ハ節制頭トノ接合面ヲ鑢削シ克社製三門
ノ中二門ハ活塞ニ此レト外中徑ヲ同フセル(漏孔部ヲ削開
ス)黃銅製ノ円鑢ヲ鐸著シ他ノ一門ハ黃銅製円鑢ノ鐸著不
可能(金貨ノ關係ナラン)ナリシヲ以テ(活塞ト節制頭トノ接
合間隙ニ漏孔底ト外徑ヲ同シクセル円鑢ヲ介入シテ射撃
セシニ其ノ結果不良ナリキ)他ノ内地製活塞ト交換シテ各
砲車ニ二箇ツツノ節制頭ヲ適合セシメタリ
以上ノ如修法ハ實射ニ於テ別ニ異狀ヲ認メサリシ
活塞桿中經過大ナルモノハ單ニ其ノ部ヲ修整ノ大サ
鑢削セハ可ナラン

第三 射撃上ノ文感

前記野戰砲兵射擊學校保管ノ野砲五門ニ就キ射角零度ニ
テ得タル後坐長次ノ如シ

砲身番號	野戰砲	
	A	B
980	1.236	1.246
997	1.242	1.259
10	1.250	1.260
22	1.238	1.252
24	1.237	1.226

此ノ後坐長ハ検査格例ニ示ス竣工試験ノ際ニ於ケル規定
後坐長(1.190&1.240)ニ比シ稍大ナル感アリ然レトモ試験火
砲ハ既ニ少キモ2600多キハ550發發射セルモノニシテ活
塞ノ導子ノ磨滅其ノ他駐退機各部品ノ衰損等ヲ考量セハ
所期以上ノ好成绩ト謂フヲ得ヘリ從テ制式寸度ニ製作セ

ル豫備品ヲ直ニ使用スルモ射撃上敢テ支障ナキモノト認ム

結論

以上調査實驗ノ成果ニ因レハ三八式野砲節制頭ノ交換性ハ充分ナリ故ニ砲及砲架屬品タル豫備節制頭ハ制式寸度ニ製作セル完成品ヲ以テシテ支障ナキモノト認ム
但シ少數砲車ニ在リテハ活塞桿ノ寸度及活塞螺定ノ關係位置等ニ由リ直ニ制式寸度ノ節制頭ヲ結合シ難キモノアルヲ以テ此ノ際各砲ノ豫備節制頭トナスヘキモノヲ各隊ニ送附シ兵器支廠長ヲ立會ハシメ節制頭組立検査ノ要領ニ依リテ其ノ適合ヲ検査セシメ其ノ適品ハ直ニ之ヲ其ノ

砲ノ豫備品トシ適合不良ナルモノハ
 送附セシメ左記要領ニ依リ制式寸度ノ節制頭ヲ直ニ嵌
 合シ得ル如ク^{之ヲ}活塞桿及活塞ヲ加修スルノ處置ヲ取ルヲ適
 當トス

加修要領

一、活塞桿節制頭嵌入部ノ中徑大ナルモノハ之ヲ制式寸度
 ニ鑪削ス此ノ際固有節制頭ノ裝着不良トナルトキハ之
 ヲ新品ト交換ス
 二、活塞螺定位位置過出シ結合シ能ハサルモノハ制式寸度ノ
 節制頭ヲ結合シ得ル如ク活塞ノ接合面ヲ鑪削シ其ノ固
 有節制頭ハ新品ト交換ス

ハ前項ト反シ活塞ト新節制頭トノ接合部ニ間隙アルモノ
 ハ活塞ノ接合面ニ之ト外内中徑ヲ同ウシ、漏孔部ヲ削開
 セル黃銅製圓鑲ヲ鐸著シ其ノ固有節制頭ノ長ヲ制式寸
 度ニ鑪削ス若シ金質ノ關係上圓鑲ノ鐸著不可能ノモノ
 アラハ活塞ヲ新製品ト交換ス
 ニ新節制頭ト逸出孔辦ノ密合不良ノモノハ逸出孔辦ニ加
 修ス若シ之ヲ爲固有節制頭トノ密合不良トナルトキハ
 固有節制頭ヲ交換ス
 又將來ハ活塞節制頭ノ交換性ニ就テ製作上一層ノ注意
 ヲ取ルノ必要ヲ認ム

附言 上記研究中往々活塞桿ニ刻セル番號ト火砲番號

ト一致セサルモノアルヲ認メタリ此ノ合一ハ必スレ
 モ必要ナラサルナランモ殊更ニ番號ヲ附シアルモノ
 互ニ合一シアラサルハ取扱上錯誤ヲ來スノ恐アルヲ
 以テ今回點檢ノ際其ノ合一ニ注意スルヲ要セシ但シ
 設使ヒ兩番號相一致ニアラサルモ從來使用ノ結果差
 支ナキヲ以テ今更ニ其ノ組合ヲ變スルハ反テ不利ナ
 ルヘキヲ以テ現在ノ組合ニ於テ治塞桿ニハ砲番號ヲ
 改刻スルヲ適當ト認ム